

油ヶ淵水質浄化対策フォローアップ委員会準備会の主要意見

1. 油ヶ淵水質浄化対策フォローアップ委員会準備会について

意見なし

2. 油ヶ淵の水質浄化対策について

(1) 油ヶ淵の成り立ちについて

- ①もう少し昔に遡ると塩害はどうであったか。高浜川水門が機能しない場合に、湖を超えて農地まで塩水が浸入してくるのか。

(2) 高浜川水門及び油ヶ淵の水位変動、流動について

- ①高浜川水門の操作状況や油ヶ淵の水位変動はどのようになっているのか。
- ②出水時は、湖内に入って来た水がそのまま出て行くのか。
- ③下層に塩分があれば、出水時に入って来た水は濁度があっても軽いので、淡水は表層から出ていくような湖内の循環は起きているのか。
- ④どのように水が動いているのか。

(3) 油ヶ淵の塩分の状況について

- ①塩分濃度分布がどうなっているのか。それによっては、感潮域や塩水くさびなど、懸濁物質の動きが難しくなる。

(4) 油ヶ淵の水質とにごりの状況について

- ①濁度とSSは粒径の違いで関係が変わってくる。CODは浮遊性のプランクトンに由来するものか、流入してくる有機物に由来しているのかで変わってくる。できればそれが経年的にどのように変化しているのかも含めて、COD、SS、濁度、透視度等の水質相互間の関係を整理してほしい。
- ②1月は濁り成分は少ないとされているが、透視度は低い状況にある。濁り成分と透視度に関連性がないのであれば、透視度を低くしている原因をまだつかめていないことになる。その原因をつかめないと、シミュレーションや対策をしても透視度が上がるとは限らない。何故1月に濁度が低いのに透視度が高くないのかがキーポイントになる。

(5) 水位変動とにごりの関係について

①水位変動に伴って流入河川のSSや濁度がどのように変化するのか。

(6) 風とにごりの関係について

①底泥の巻き上げに関しては、池の縦断方向の風向の場合と、横断方向の風向の場合で、風の影響が変わってくるので、風向・風速と濁りとの関係を整理してほしい。

(7) 油ヶ淵のにごりの実態やにごりメカニズムについて

①粒径の小さなものが常時浮遊して濁りとなっているのであれば、どのようなシミュレーションにして、対策にどのように結びつけるのか。それよりは何が原因なのか現象解明した方がよい。

②どのようなモデル構造にするのか、何が原因なのか等の情報も必要ではないか。